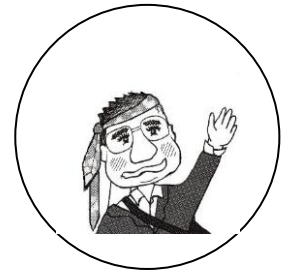


# 大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail: daimao@travelmitra.jp)

## 宇多田ヒカルの「私」①

宇多田ヒカルの母、歌手藤圭子を知る若ものは少ない。藤圭子の「圭子の夢は夜ひらく」は1970年4月25日にリリースされた。当時は演歌ではなく「怨歌」ともいわれた。圭子は北海道の極貧の家庭で育った。今の若い人たちにとって、あの暗さ、重さは理解できないかもしれない。

「怨歌」のころは、ベトナム戦争や高度成長の終わりの時期にあたる。それでもEXPO70万国博覧会が催され華やかな時代でもあった。どうして圭子の暗い歌がヒットしたのか分からないが、おそらく世相を反映していたのであろう。繁栄と不安の時代であったのかもしれない。

その頃わが輩は大学を卒業したものの就職もせず、「不安」の真ただ中にいた。レコード問屋(社員扱い)でアルバイトをしていたが、「圭子の夢は夜ひらく」(作詞:石坂まさを)のドーナツ盤が飛ぶように売れた。

同じころに、園まりの「夢は夜ひらく」(作詞:中村泰士)もあった。

雨が降るから 逢えないの  
来ないあなたは 野暮な人  
ぬれてみたいは 二人なら  
夢は夜ひらく

園まりの歌は大人の恋歌で、若いわが輩には全く響かなかった。

赤く咲くのはけしの花  
白く咲くのは百合の花  
どう咲きやいいのさ この私  
夢は夜ひらく

藤圭子の歌は、「十五、十六、十七と 私の人生暗かった 過去はどんなに暗くとも 夢は夜ひらく」と続く。圭子の人生は暗かったが、東京の大学に遊学できたわが輩の「学生期」は、輝くように明るかった。素晴らしい恩師、学友や家族のような人たちに恵まれ、眩しすぎて行路がみえなかった。圭子のように底から這い上がる必要はなかったが、ただ一つ、「インドに行くべきか、行かざるべきか」の自己選択に迫られていた。迷い道で「どう咲きやいいのさ この私」を口ずさんでいた。

確か2006年であったか。高知県で講演を頼まれ、伊丹空港から搭乗した機内に藤圭子がいた。初めて本人を見た。2013年に自死したというニュースが流れて、一瞬「赤く咲くのはけしの花」の歌詞、「赤い」が蘇った。

圭子がどのような重荷を背負って歩んできたか知る由もないが、細やかながら、わが輩はインドで夢が開いた、と思っている。学生期にひきつづき、「放浪期」にとてつもなく偉大に人たちに値遇す

ることができた。

前置きはこれぐらいにしておき、藤圭子の娘宇多田ヒカルの話に進みたい。

インドに出発する三日前にテレビを観ていたら、宇多田の新曲発表があった。歌(リズム)は全く魅力がなかったが、歌詞を聞いてはたと思いついた。これはインド哲学の教材につかえる、と。

「何色でもない花」

[Verse 1]

君がくれたのは  
何色でもない花  
ああ そんなに遠くない未来  
僕らはもうここにいないけど  
ずっと

[Verse 2]

朝日が昇るのは  
誰かと約束したから  
ああ 名高い学者によると  
僕らは幻らしいけど  
今日も

[Refrain]

I' m in love with you  
In it with you  
In it with you  
In love with you  
In it with you  
In it with you

これは難解な歌詞である。[Verse 1]は虚無的な響きがある。「色のない花」とはどのような花であろうか。白色ではなく、「透明な花」のことか。

[Verse 2]の「名高い学者」とは誰のことか。Jポップとしては珍しく硬い名詞である。

われらが観るものすべては幻(ゆく川の流れのようなもの、現象)だと主張した哲学者は、インドの龍樹(2世紀)か、それとも聖者シャンカラ(8世紀)のことだろうか。

さらに分からないのは[Refrain]である。I' m in love with you は、あなたを愛している、の意味であろう。分からないのは、In it with you(その中であなたと一緒に)のItは「愛」と解釈するとすんなり理解できそうだ。(そうだろうか?)

テレビで、宇多田は「量子力学」、「私」について語っていたように記憶している。〈It〉について次号では、深読みしてみよう。宇多田とインドと関係があるのか、ないのか。その辺りを無理やり結び付けてみよう。